

# 原発のコストどう考えるか



どうする原発⑧

# 「事故の賠償金 国民負担」

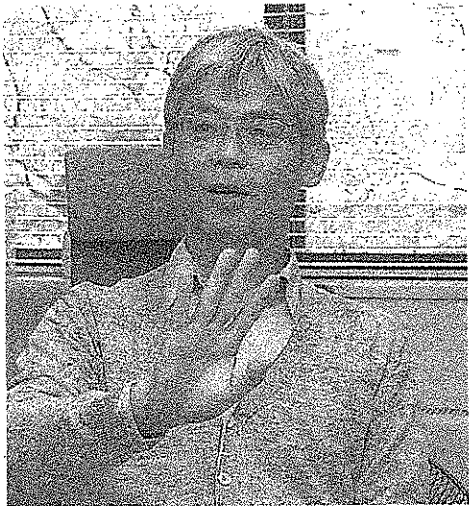
「原発再稼働に反対の立場ですね。」

「東京電力福島第一原発の事故で、原発には大きなリスクが伴うことがはっきりしました。それなのに再稼働の責任を誰が負うのか、はつきりしません。原発が動かなくても電気は問題なく足りていたわけですから、原発は今すぐ廃止してもいいと思っています。」

「福島原発事故では、東京電力が被災者に支払う賠償金だけでも7兆円と巨額ですが、その原資は各電力会社が電気料金に上乗せして集めています。除染などには、莫大な国の税金も投じられています。結局は国民負担です。原発のコストは安いとされてきましたが、そうした費用を考えると、決して安いとは言えず、

## 立命館大教授

### 大島堅一さん (48)



おおしま・けんいち 1967年福井県生まれ。立命館大国際関係学部教授(環境経済学)。従来の原発のコスト計算に批判的な立場で、2011年の東日本大震災後には国のエネルギー・環境会議の「コスト等検証委員会」委員も務めた。11年の著書「原発のコスト」(岩波新書)で大佛次郎論壇賞。

「関西電力は「高浜原発を再稼働すれば電気料金を下げる」としています。電気料金は、確かに原発停止の影響で上がりました。それは、運転していない原発に大きな維持費がかかるうえに、その原価分を補う火力発電などのコストが追加でかかるからです。原発が動けば、その追加コストは減らせるので、値下げできるというわけです。一方で、原発を廃止すれば

維持費がいらなくなるので、同じように今よりは値下げできるはずですが」

「私の試算では、高浜原発3、4号を再稼働しても、原発をゼロにしても、同程度の値下げが可能ですが、でも電力会社は内訳を詳しく開示していません。本来なら再稼働のリスクはこうで料金はいくら、廃止だとリスクはいくらと料金はいくらというふうに国民に示すべきでしょう」

「それでも電力会社が原発にこだわるのはなぜだと思えますか。」

「経営のため、ということでしょう。関西電力は原発を重視し、火力発電には力を入れてきませんでした。原発を動かさないともうから

ない経営体質になっているからです」

「ただ、経営面でも原発の先行きは不透明です。たとえば欧州では、太陽光や風力など再生可能エネルギーの導入が進み、電力を供給するところが増え、大手電力会社の電気が売れないようになってきています。原子力や大規模な火力発電所を持つと、初期投資が巨額にのぼるため、経営が厳しくなっています」

「国内にほとんどない石油や天然ガスに頼ると、エネルギー安全保障上問題だという指摘もあります。」

「確かに原発を使うことは、電源の多様化にはつながりません。ただ、再生可能エネルギーなども増えていることを考えれば、それが再稼働の決定的な理由になるとは思えません。というのも、原発は外部電源がないと動かせません。極端な例として中東紛争で化石燃料の輸入が途絶えたらどうする、といった例が挙げられますが、化石燃料がないと原発を動かすのは難しい。

「非常に脆弱なんです」

「原発の立地自治体などにも、早期の再稼働を求める声があります。」

「関西では、原発が福井1県に集中しています。だから、原発を動かすには福井さえ抑えれば良いという発想で地域対策が行われてきました」

「長い目で見れば、古い原発は維持できないので、望むと望まざるにかかわらず原発はなくなっていく方向です。地元の人も、それは分かっているといます。そこで原発に依存しない社会をどうつくるのか、国とともにビジョンを打ち出さないといいけません」

「遠回りのように見えますが、地域資源を生かした産業づくり、そして人材育成から始めるのが、将来の発展に向けた一番の近道だと思えます」

(西村宏治、伊藤弘毅)